中央図書館の開館記念事業として募集した「安曇野エッセイ賞」。最終審査会となる委員会が3月4日、交流学習センター「みらい」で開かれました。最優秀賞に選ばれたのは、北海道帯広市の佐藤敦子さんの作品「夢への旅」。審査員の熊井明子さんは、「非常に好感度のある作品。旅行者の目で始まる旅の素晴らしさも感じる」と評しています。作品全文を紹介します。

「安曇野エッセイ賞」最優秀賞受賞作

夢への旅

北海道帯広市
佐藤 敦子 33歳

JR線の各駅停車と快速が一日乗り放題になる青春18キップ。これを母からもらったのは、私が17歳を迎えた春のことだった。「一日中電車に乗っていられるの？」私の胸は急に高鳴った。行動範囲がごく限られていた高校生の私にとって、このキップはどこまでも行ける魔法のキップに思えたのである。早速図書館へ直行し、パラパラと本をめくっていると、ふと一枚の写真に目がとまった。雪をかぶった山々を背にして走る二両の電車。撮影場所は大糸線穂高駅近郊とある。「ここに行ってみよう！」安曇野が初めての一人旅の行き先に決定した瞬間だった。

4月初旬、意気揚々と埼玉の自宅を出発した私は、新宿駅から中央線の各駅停車に乗り、一路安曇野を目指した。しかし、はやる気持ちとは裏腹に、電車はあちこち停車する。何度も乗り換えの末、大糸線が穂高駅に到着した時は、早朝からの興奮で既にぐったりだった。しかし、電車を下りた途端、まるで迫り来るかのように連なる山々を目の当たりにして、疲労は一瞬にして吹き飛んだ。手前の山は雪がすっかり消えて春の気配を漂わせているが、奥にそびえる険しい山の斜面はまだまだ白く、真っ青な空と白い頂が美しいコントラストを描いている。しばらくの間、私はこの雄大な景色に見入っていた。

次に乗る電車までは約2時間ある。その間でわさび農場へ行って見ることにした。ところが、農場へ向かって歩く途中、背後に佇む山が気になり、つい何度も振り返ってしまう。そこで予定を変更し、見晴らしの良いあぜ道に腰を下ろして、持参したおにぎりをほおばった。風はまだ冷たいが、若干汗ばんだ身体に春の日差しが心地よい。気分はまるで最高のロケーションを有するオープンカフェのランチである。短い滞在ではあったが、こうして安曇野の風景を心ゆくまで満喫したのだった。

私を乗せた電車が安曇野から遠ざかるにつれて、山々は旅の終わりを告げるかのように影を帯び始めた。いつしか日は暮れて徐々に車内が混雑し、私が一人座っていた狭いボックス席にも一家三人が一緒になって何となく落ち着かない。ところが、偶然にもこの家族は大の安曇野ファンで、私が見た山々は北アルプスということ、道端の石碑は道祖神ということなど安曇野にまつわる多くの事を教えていただいた。すっかり話が弾んだ上に、駅弁までご馳走になり、思いがけず楽しい旅の終わりを迎えたのだった。

今振り返ると本当に小さな旅だったが、初めて目にする景色と旅先での出会い、いずれも当時の私には貴重な体験となった。というのも、この旅を契機として様々な地域の自然や歴史に対して興味を抱くようになり、大学で地理学を学びたいという夢が生まれたからである。翌年その夢は叶い、充実した四年間を過ごすことができたのだった。今は縁あって北海道に嫁ぎ、豊かな自然に囲まれて暮らしているが、春の日高山脈を見ると、進路に悩む私の背中を押してくれた北アルプスの風景を懐かしく思い出すのである。

ふと一枚の写真に目がとまった。
雪をかぶった山々を背にして走る二両の列車。（中略）
「ここに行ってみよう！」
安曇野が初めての一人旅の行き先に
決定した瞬間だった。

33都道府県より437作品の応募

このたびの審査会では、作家の熊井明子さん、安曇野文芸編集長の中島博昭さん、市ブランド推進室中川完治室長の3人が応募の全437作品から最終審査に残った11作品を審査しました。その結果、下記の4作品が受賞作品として選ばれました。受賞作品は市ホームページに全文を掲載しています。ぜひご覧ください。また、エッセイ内のフレーズなどは、市のＰＲ活動などに使用する予定です。

最優秀賞　「夢への旅」
佐藤敦子さん（33歳・北海道帯広市）

【選考理由】 17歳で旅をした時の安曇野ならではの魅力ー雄大な自然の印象が初々しく描かれている。将来の進路への夢も芽ばえたとのことで、読む人に「安曇野は希望が生まれる地、旅してみたい地」といった印象を与える。山が気になってあぜ道でおにぎり･･･といったほほえましいところもよい。

優秀賞　「風の道をみつけたよ」
新井浩子さん（44歳・飯田市）

【選考理由】 安曇野の魅力をしっかりと捉えている。文章の強さが心を打つ。

優秀賞　「りんごの気持ち わかるかな？」
吉村和巳さん（69歳・埼玉県三郷市）

【選考理由】 文学的な表現ものぞかせながら、たくましい文章。

奨励賞　「安曇野市」
赤羽 彩さん（17歳・松本市）

【選考理由】 今後の執筆活動に期待をこめて。

講評を述べる熊井明子さん（写真左）

問穂高交流学習センター「みらい」内
文化課文化振興係（TEL81・3111 FAX82・0966）